

科目名	応用演技 I						年度	2026	
英語科目名	Advanced Acting I						学期	前期	
学科・学年	声優・演劇科 2 年次	必/選	選	時間数	60	単位数	2	種別※	実技
担当教員	長谷川浩司	教員の実務経験		有	実務経験の職種		俳優		
【科目の目的】 個人ワークから始まりグループワークへ移行していく。演劇のメソッドとして、インプロビゼーションを取り入れつつ企画・構成を考えながら進める。自己の表現と他者の表現の違いを意識しながらよりよい表現方法を模索し、セルフプロデュース能力を育成。個人での企画制作とグループ単位での企画制作の相違点を理解し、一つのコンテンツを仕上げ、自己表現のあり方を習得することを旨とする。									
【科目の概要】 演技者としての表現能力の向上を図るとともに応用力を学ぶ。									
【到達目標】 自己表現の手法が多様化する現在の芸能界において、これから迎える新技術に対応していくべく、時代と共にある手法を体験しながら自分にとってどういった方法で自己表現が有効かを考え、実践できる能力を養い、セルフプロデュースを検討する。そして、それを形にするための手順や手法、技術を体得することを目標とする。									
【授業の注意点】 コミュニケーションを重視し、役割分担等、得意分野に限らず、主体的意思の元に行動し学ぶ姿勢を持つ学生を高く評価する。自らが考え、答えを導き出すことに重きを置き、積極的に参加することを求める。理由のない欠席は認めない。恒常的に出席することが基本原則である。課題として課する物の提出は必ずすること。授業時数の4分の3以上出席をしない者は定期試験を受験することはできない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	腹式呼吸が完璧にできており、長い台詞・短い台詞を正しい発声法とブレスポイントを駆使することができる。	概ね腹式呼吸ができているが、息の量が少なくなったり咽頭への力みが生じる発声をしている。	腹式呼吸を理論的に理解しているが、訓練不足により結果が出ていない。	腹式呼吸を理論的に理解できず、訓練方法の意図も理解できていない。	腹式呼吸やその訓練の重要性を理解せず、授業内において出席意欲を感じられない。				
到達目標 B	初見の課題において、母音・子音・鼻濁音・母音の無声化を的確に区別し、台詞として表現することができる。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化を自力で区別することができる。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解することができるが、自力で区別することができない。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解することができず、区別していうことができない。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解しようとして、授業内において出席意欲が感じられない。				
到達目標 C	戯曲の内容・登場人物・作者の意図を自分なりに解釈し、作品について語ることができる。	戯曲の内容・登場人物・作者の意図を自分なりに解釈し、作品のテーマを理解している。	戯曲の内容・登場人物の相関を理解している。	戯曲の内容・登場人物の相関を理解しようとする意欲は見えない。	戯曲を読解しようとする意欲がない。				
到達目標 D	自分の役割を理解し、自己都合を一切感じさせず他者の感情に訴えかける表現を行うことができる。	自分の役を理解し、他者の感情を考慮しながら“役としての”コミュニケーションを図ることができる。	自分の役を理解し、他者の感情を考慮して用いているが“役としての”コミュニケーションを図ることができない。	自分の役を理解できず、他者と目を合わせてコミュニケーションを図ることができない。	自分の役を理解しようとして、他者とコミュニケーションを図ろうとしない。				
到達目標 E	遅刻・欠席をしない	遅刻はあるが欠席は少ない	遅刻・欠席が少ない	遅刻・欠席が多い	遅刻・欠席が非常に多い				
【教科書】 レジュメ・資料は必要に応じて配布。パソコン・タブレット・スマートフォンなどのモバイルツール、参考資料等は授業内で指示する。									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 小テストおよび期末テストにより採点。授業への積極性と参加態度を評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		応用演技 I			年度	2026
英語表記		Advanced Acting I			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	マラソン	心身共に健康	1 役者とは	しっかり身体を鍛える	2	
			2 エクササイズ	体幹メソッドを体感する		
			3 グラウンド	距離ではなく時間を共有する		
2	ストレッチ	自分の身体を知る	1 身体感覚	正確に把握する能力を		
			2 ストレッチ	研ぎ澄ませる		
			3 パーソナルスペース	距離感を養う		
3	筋力トレーニング	チームワーク	1 個人プレー	自己管理を徹底する		
			2 チームプレー	コミュニケーションを取りながら実施する		
4	二人組バランス	相手を思いやる	1 呼吸	息を合わせる練習をする		
			2 側面	相手との力のバランスを考える		
			3 背面	相手を信頼する		
5	有酸素運動	集中とリラックス	1 エクササイズ	呼吸を止めず、全身にエネルギーを送る		
			2 カボエラー	相手の眼をしっかり見て呼吸を合わせる		
			3 ストレッチ	全身を脱力させる		
6	ストップモーション	筋力と表現力	1 集中力	動くとき止まるとき、筋力を研ぎ澄ませる		
			2 平衡感覚	素早く重心を管理する		
			3 感情開放	遮二無二身体をコントロールする		
7	スローモーション	全身の連動	1 反作用を感じる	素早く動く		
				素早く止まる		
				止まったまま動かない		
8	呼吸法	腹式呼吸	1 胸式と腹式の違い	横隔膜を下げる		
			2 全身リラックス	頭のとっぺんからつま先まで脱力する		
			3 リズム	呼吸をコントロールする		
9	母音法	母音と子音	1 日本語のアクセント	口の口跡をしっかり理解する		
			2 連母音・長音	連なる音、伸ばす音を理解する		
			3 連子音(促音)	無声摩擦音を理解する		
10	フレージング法	句読点の選別	1 読み	読み言葉を理解する		
			2 書き	文章の構成を構築する		
			3 話し方	プレスポイントを決める		
11	演技メソッド	発想と発声	1 発想	しっかりイメージする		
			2 発声	イメージしたことを発声する		
			3 フレージング	文節で感情の起伏(折れ)をする		
12	シアターゲーム	楽しむこと	1 集中力	童心に戻る		
			2 身体機能			
			3 共感性		コミュニケーション能力を養う	
13	リズム	意識の分散	1 科白	相手を意識し、チーム全体のリズムを意識する		
			2 間			
			3 科白回し			
14	リラックス	腹式呼吸	1 あくび	喉のリラックスを意識する		
			2 犬舌			
			3 距離感		距離に合わせて声のボリュームを調整する	
15	リトミック	動作確認	1 手足を動かす	心と身体を動かし、日常生活に近づける		
			2 意識の分散			
			3 全身の連動			
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他						
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった						
備考 等						